

第 870 号

令和 2 年 9 月 7 日

佐渡市立金井小学校
佐渡ことば・こころの教室

教室だより

〒952-1209

佐渡市千種丙178番地1

TEL:0259(63)4156(直)

4115(代)

FAX:0259(63)4117

E-mail:skotoba@sado.ed.jp

HP:<http://kanai-es.sado.ed.jp>

(教室だよりのバックナンバーも掲載中)

愛着形成の大切さ

佐渡特別支援学校

校長 齋藤 千賀子

幼少期に親など養育者との間に信頼関係や愛情などの情緒的なきずな(愛着)が育まれることができないまま大きくなってしまうと、対人関係や社会生活に問題を抱えやすくなると言われています。今、単に乱暴、落ち着きがないというだけでなく、大人を試すような行動、自傷行為など、指導が難しい児童生徒が増えているように思います。精神科医の岡田尊司先生は愛着障害に関する著書の中で「ADHDや反抗、過食嘔吐、自傷のような問題行動であれ、慢性うつや不安のような精神的な問題であれ、その原因の多くが不安定な愛着に由来する場合、医学的な診断をしていくら薬を与えても根本的な改善にはつながりにくい」と述べています。「自分が大切にされている・愛されている」と実感できること、愛着の土台がいかに大切かということを改めて考えさせられました。



「^{れい}隸書」による新「教室だより」

昭和45(1970)年9月14日に「佐渡・ことばの教室開級式」が行われました。今から50年前です。この50年の節目に、題字を新しくしました。題字の担当は元教室担当の中川政八先生です。約20年間親しまれた楷書と違^{かいしよ}う隸書による題字を書いてくださいました。これまでの題字が多くの人に親しまれてきたように、今回の題字もまた多くの皆さんに親しまれることを心から願っています。

本当に美しい言葉は、発音だけじゃない

この言葉は、元教室担当の銅 郁夫先生が以前担当した児童の母親から手紙でいただいた言葉だそうです。佐渡ことば・こころの教室開設50周年記念誌『灯火をかかげて—教室の50年—』の「50年のあゆみ」の中にでてきます。

私は、「ことば」の担当をしていますので、発音のきれいさやクリアさ、美しさに注目しがちです。でも、この言葉を聞いて、発音だけではなく、気持ちや思いを子どもが自分の言葉でなんとか表現しようとするところに、本当の美しい「ことば」があると思えるようになりました。「多少発音があいまいでも、それより大切なものがあるよ。」とされているように思います。

50年の節目に、今後もこの教室に残ってほしい言葉だと思っています。(仲田)



岡田尊司 著「死に至る病～あなたを蝕む愛着障害の脅威」光文社新書より引用

親の会コーナー



保護者の声

子供達の輝かしい未来へ

羽茂 W・M

“佐渡市の高等学校に通級指導教室を作ろう”という活動が、親の会の方々の声から始まったそうですが、有り難いことだと思えます。子供も高校進学を考える年頃になり、今までと同じように(ことば・こころの教室がある)心の安息場所があるということは、子供や親にとって、どんなに心強いか分かりません。

自分たちの思いを声に出し、形に現すことで良い方向へ動き出し、子供達の輝かしい未来へ、夢や希望が広がるように思います。

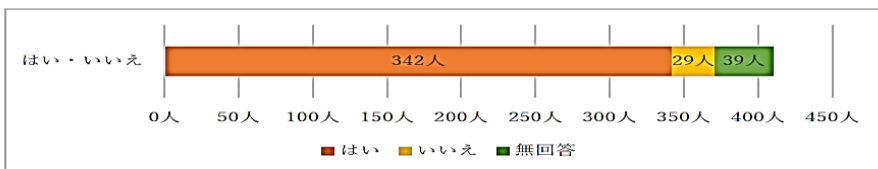
いつも子供の心に寄り添い、やる気を引き出して下さり、親子共々、前向きな気持ちにさせて頂いています。

本当にありがとうございます。

「高校にも通級指導教室を」の活動について

7月号でも紹介した通り、「佐渡市内の県立高等学校に通級指導教室の設置を求める活動」が行われています。高校通級についてのアンケートと要望書について、ご協力くださった皆様、大変ご多用の中、ありがとうございました。これまでの集計を中間報告いたします。

■高等学校に通級指導教室は必要か？



高等学校に通級指導教室が必要と考えている方が多いことが分かります。教室に通う児童生徒からは、「楽しい場所で話しやすいところだと思うから」「普段の授業だと分からない時があるから」などの意見が寄せられています。

なお、要望書への署名は、2417名(8月24日現在)集まっています。アンケートの集計結果と一緒に、後日佐渡市教育委員会へ提出する予定です。

ことば・こころ応援団



今回のことば・こころ応援団は、初代教室担当の計良益夫様です。計良様は、初代教室担当者として、現在の「佐渡ことば・こころの教室」の立ち上げに尽力されました。教室を離れられても、子どもたちを気に掛け、優しい表情で見守ってくれています。いつも笑顔で、子どもだけでなく、大人にもたくさんの元気をくださる先生です。

—— ホツコリ、ゆったり、暖かく ——

初代教室担当

計良 満寿翁 (益夫)

終いの湯に浸りボートしている傍で、四才の吾が子は、湯気に曇った窓ガラスに私の顔を描き始めました。

時には髭をつけ、メガネをつけ、一口メモを書き込んで、ハシャイていました。洗髪などしていた私も、いつの間にか引き込まれ、二人でハシャグ事もありました。

誰にも邪魔されず、二人だけの楽しい一。

楽しい、本当に楽しいひと刻でした。

一年余り過ぎた？或る日、いつも面倒をみている祖母が、

「Aちゃん変わった！！いい子になった！！」と

ひと言。一瞬ドキリ……。

祖母のホメコトバに、嬉し涙……。

「ありがとう！！お母さんのおかげです！！」と

笑顔でのひと言が、スーツでました。

歩み始めたばかりの私達ですが、

『お母さんと終いの湯の○○○！！』と

おも
念っています。

